

学びや

ヨイムスリッパ

幕末から明治維新にかけて、京都の町は困難に直面していました。幕末からの政情不安、禁門の変による市中大部分の焼失、東京への遷都により人口が減り、町は衰微し

ていたのです。

しかし、時代は開化期を迎え、京都は復興のために西洋の先進的な技術やアイデアを積極的に実践していきました。博覧会の開催、舎密局（理化

そんなころ、開通したばかりの新京極通の近くに住み、日本画家として活動していた久保田米僊（むぎた）は日本画の将来について考えていました。当時は西洋画の盛んな輸入もあり、

と教育のつながりを模索し続けました。将来の京都を担う人材は小学校から生まれる、そうした多くの子どもたちに日本画の魅力を伝えたい、そんな思いのこもった

衰退の伝統文化どう継承

目まぐるしいほどの近代化の中で、伝統文化がどのように社会と関わって受け継がれていくかという問題は、明治時代にも問題になっていたのです。

(京都市学校歴史博物館 学芸員 森光彦)

り、日本画は衰退し、危機は多くの教師が参加し、機を迎えていました。その集会で絵画を利用するれゆえ、伝統的な日本画も新しい受容の場を開拓する必要があると感じていたのです。

写真1は学校歴史博物館（下京区）で開催中の企画展「日本画開拓の時

社会のありようが急速に変化していく様を目的に、小学校に当たりしていた若い画家は、日本画はもっと社

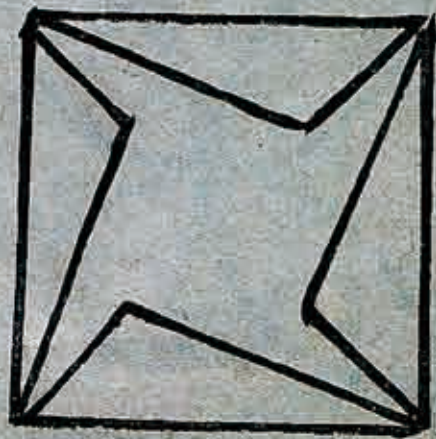


写真1、「小学毛筆習画帖」(久保田米僊著、1889年発行)



写真2、米僊が尚徳校（下京区）に贈った「孟母断機図」(1874年)